

編 集 後 記

センター報もいよいよ10号を数えることになった。編集担当も3号、6号と今回の10号で3回目を数える。センターの教職員諸氏と各号毎に記事を寄せられた皆様方の御協力の賜物と編集担当者という名ばかりの責任を遂行する度に感じる。先日三菱化成総合研究所のグループセミナーで自分の仕事の話をした時に廃棄物処理のシステムを見せてもらってそのすばらしさに驚いた。ここでは全てが“closed system”なのである。環境に放出するのは空気だけと知って二度驚いた。センター報を通して岡山大学の教職員諸氏に様々な情報をお届けすることは重要なことと思う。この10号も多くの人に読んでいただけたらと祈っている。しかし将来はやはり“closed system”が理想かなと思いつつ、10号に御協力いただいた皆様に感謝いたします。

(斎藤 清機)